

第9期地球観測推進部会の今後の進め方について

令和4年7月1日

1. 第9期における議論について

- ・「今後10年の我が国の地球観測の実施方針のフォローアップ報告書」(令和2年8月地球観測推進部会)において、SDGsへの貢献として、SDGsの各評価指標やポストSDGsに向けた目標設定に関して、地球観測データの利活用の推進が示されている。また、科学技術・イノベーション基本計画(令和3年3月閣議決定)においては、改めて「STI for SDGs」活動の国際展開等の促進を通じた科学技術外交の戦略的な展開を図ることとされている。
- ・現在のSDGsの評価指標については、我が国では、JAXAの衛星データに基づく解析情報が一部の評価指標に活用されつつあるが、地球観測データに基づく評価指標の設定は限定的であり、今後のSDGsの検証等において、観測データの一層の活用が期待される。
- ・また、地球観測に関する政府間会合(GEO)次期戦略(Post-2025)に向けた検討も開始される予定である。
- ・このような状況を踏まえ、総務省等関係省庁とも連携し、地球観測・予測データやデータの利活用を促進するデータプラットフォームによるSDGs・ポストSDGsへの貢献等について深掘りした議論を行い、まとめていく。
- ・なお、本議論においては、気候変動枠組条約COP26と生物多様性条約COP15における成果や、また、仙台防災枠組2015-2030への貢献も考慮していく。

2. 検討事項

(1) 最終とりまとめ

- 生物多様性・自然資本については特に重点的に検討
- 重点課題¹の設定の検討
(候補として当面検討を進めるもの)
 - 気候サービス・気候レジリエンス
 - 生物多様性・自然資本
 - 温室効果ガス監視(グローバルストックテイク)
 - SDGsターゲット指標(グローバル指標・ローカル指標)
- 次期(第10期部会)での実施方針²の見直しに向けた課題の抽出、方向性などを検討

(2) GEO 次期戦略(Post-2025)

- 令和5年秋、GEO閣僚級会合において次期戦略文書のとりまとめを予定
- 今期最終とりまとめの検討を活用しつつGEO次期戦略への貢献についても検討

(3) 令和4年度地球観測の実施計画

¹ 中間とりまとめ及びこれまでの検討を踏まえ、SDGsの観点から地球観測・予測データを利活用できる可能性が特に高いと判断できるものであって、関係省庁間の連携をさらに充実させることが効果的であると見込まれるものを設定

² 今後10年の我が国の地球観測の実施方針(平成27年8月25日科学技術・学術審議会研究計画・評価分科会地球観測推進部会)

3. 今後の予定

- 部会:4 回程度開催
- 第6回(今回)
 - 今後の部会の進め方について
 - GEO Post-2025 戦略ミッションの検討について
 - 生物多様性・自然資本関連の取組について
- 第7回
 - 令和4年度地球観測の実施計画
 - GEO Post-2025 戦略ミッションの検討について
 - 生物多様性・自然資本関連の取組について
 - 温室効果ガス監視(グローバルストックテイク)の取組について
- 第8回
 - SDGs 指標について
 - 気候サービス・気候レジリエンスの取組について
 - 最終とりまとめについて
- 第9回
 - 最終とりまとめについて
 - GEO Post-2025 戦略ミッションの検討について

(別添参考)

重点課題の候補として当面議論を進めるものの状況

<p>気候サービス・ 気候レジリエンス</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気候変動対策は多くの SDGs に関連する重要課題 ・ 地球観測・予測データの利活用が国際的に進展しているが、データ提供者から気候変動対策を実施する主体までそのデータバリューチェーンをつなぐ主体・技術の不足が課題 ・ 気候変動研究を担う文部科学省・気象庁、影響評価を担う環境省・国土交通省・農林水産省、データニーズを有する金融庁等関係省庁や機関が連携した対応が進行中
<p>生物多様性・自然資本</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生物多様性・自然資本の維持・向上は多くの SDGs に関連する重要課題であり、気候変動とも密接な関連がある ・ 気候変動と同様、データバリューチェーンをつなぐ主体・技術の不足に加え、自然資本に関するデータプラットフォームの整備が国際的にも大きな課題 ・ 環境省、文部科学省、農林水産省等関係省庁や機関が連携した対応によりさらに充実できる可能性
<p>温室効果ガス監視 (グローバルストックテイク)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ グローバルストックテイクは、国連気候変動枠組条約・パリ協定の長期目標実現に向けた世界全体での取り組み状況の評価プロセス ・ 地球観測データに基づく各国からの貢献が求められ、地球観測の長期性・継続性の確保が必要 ・ 衛星データに加え現場観測データも必要であり、環境省、文部科学省等関係省庁や機関が連携した対応が進行中
<p>SDGs ターゲット指標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 持続可能な開発のための 2030 アジェンダにおいて、明確に地球観測データの活用が位置づけられている ・ 地球観測データに基づく各国からの貢献が求められ、地球観測の長期性・継続性の確保が必要 ・ 国連統計委員会の下で議論が行われており、担当する総務省、地球観測を担当する文部科学省、環境省等関係省庁や機関が連携した対応が進行中